

審議会等の会議結果報告書

【担当課】 八ヶ岳総合博物館

会議の名称	平成25年度 茅野市博物館協議会		
開催日時	平成25年9月5日(水) 午後6時00分～8時00分		
開催場所	茅野市八ヶ岳総合博物館 研究室		
出席者	浜篤委員長、浅川清志副委員長、岡野勇二委員、沖野外輝夫委員、小口隆秀委員、河西允人委員、小平光子委員、名取陽委員、関塚正嗣委員、戸田外史委員、根橋良紀委員、藤森栄子委員（専門部会 北澤和男委員） 牛山英彦教育長、小池冲磨生涯学習部長、鶴飼幸雄文化財課長、小林深志尖石縄文考古館文化財係長、中村浩明尖石縄文考古館考古館係長、田村健伸長官守矢史料館長、若宮崇令八ヶ岳総合博物館長、大谷勝己八ヶ岳総合博物館係長、八ヶ岳総合博物館柳川英司主査		
欠席者	花沢芳江委員、関塚正嗣委員、原田頼子委員、藤森栄子委員		
公開・非公開の別	(公開)・非公開	傍聴者の数	0人
議題及び会議結果			
発言者	協議内容・発言内容(概要)		
牛山教育長	1 開会 2 教育長挨拶 3 委員の委嘱 4 委員自己紹介 5 職員の紹介 6 協議事項 (1) 正副議長の選任 (2) 各館平成25年度の事業計画について (3) 専門部会の経過と答申について (4) その他 (5) <教育長挨拶> お忙しいところ、ありがとうございます。例年では夏休み前に開催してきたが今日開催させている。ご存知のように茅野市には博物館が3つあり、それぞれ活動しているのでそれぞれについて忌憚のないご意見をいただきたい。さらに新聞等でご存じのように総合博物館は20年以上が経過し、自然や社会情勢が変化してきておりますが、その変化に対応するために展示更新をし、さらに科学教育振興も視野に入れるという課題がある。そしてこれからの時代にふさわしい博物館にするにはどのようにすればよいかという問題があり、真剣に考えさせていただいた。そして昨年7月でしたか専門部会に八ヶ岳総合博物館はどうあるべきかという諮問をさせていただき、検討を進めていただいた。その結果を本日の会議でお披露させていただきますので、その内容についてもご審議いただきたいと考えている。よろしく願いいたします。 <委嘱状の伝達>		

	<p>教育長より各委員に委嘱状を伝達</p> <p><委員自己紹介> 各委員より自己紹介</p> <p><職員紹介> 事務局職員の自己紹介</p> <p><協議> (1) 正副議長の選任 委員長として浜 篤委員、副委員長として浅川清志委員を選出 浜委員長、浅川副委員長挨拶</p>
浜委員長	<p>(2) 各館平成 25 年度事業計画について では次第に沿って、各館平成 25 年度の事業計画について報告していただく。</p>
<p>鵜飼館長 浜委員長</p>	<p>資料に基づき、尖石縄文考古館の事業計画について説明。 今の説明についてご意見はあるか。</p> <p>.....</p>
<p>中村係長 浜委員長 若宮館長 浜委員長</p>	<p>縄文ゼミナールのギャラリートークについて説明してください。 中原遺跡関係の特別展で学芸員が土器を見せながら説明をしている。 では次へ進む。総合博物館お願いします。 資料に基づき、八ヶ岳総合博物館の事業計画について説明。 質問ありますか。</p> <p>.....</p>
若宮館長	<p>市民研究員養成講座があるが参加者の声や、今後のことについて教えてほしい。 1 期 3 年で計画している。今年は 1 年目でそれぞれの分野で基礎の勉強をしてもらっている。30 名ほど参加者があるが非常に熱心で優秀な方ばかりだ。みなさん、喜んで参加してくれているようなのでいい勉強ができているのではないかと。2 年目からはテーマを決めて調査研究的な活動してもらおう。その活動を通じてさらに力をつけてもらい、将来的には博物館活動に有機的にかかわってもらい、博物館を支え高めてもらえるようにしたいと思っている。まだ発足半年くらいなので目に見える成果は出ていないが、順調に推移していると思う。</p>
<p>浜委員長 若宮館長</p>	<p>非常に期待している。成果がわかるようにしてほしい。 3 月に活動発表展を開催するが、そこに市民研究員も加えて 1 年間の成果を発表するように計画している。</p>
岡野委員	<p>市民の手を借りて自然について調査研究や資料を収集しようとしているようだが、自然と人間とのかかわり、つながりというものも意識しながら進めていただきたい。また、関連のある生産性や多様性というものも地域との関連で考えてもらいたい。幅広い視点で見て考えられると思う。</p>
若宮館長	<p>ありがとうございます。素晴らしいご意見をいただいた。ここは総合博物館なので、自然だけではなく、その中で暮らす人間、そこから生み出さ</p>

戸田委員	<p>れる文化、そういうものを総合的にとらえていきたい。</p> <p>私の興味があるところだが、キノコ観察会があるが、キノコの仲間の粘菌、変形菌についても、すごく面白いから扱ってほしい。子供を対象にしても非常に面白い。</p>
若宮館長	<p>今回、粘菌の専門の先生を講師にした観察会も計画したが、講師の都合がどうしても付かず今年には実行できなかった。粘菌や変形菌は私も面白いと思っているので、やがてその分野の観察会や講座を計画したい。</p>
戸田委員	<p>楽しみにしている。ぜひ参加したい。とにかくキノコというと食べられる、食べられないという風になるが、粘菌の世界は生命の神秘にふれることができる。</p>
浜委員長	<p>食べられるか食べられないかということは、市民にとっては関心のあるところ。食べられるか食べられないかが解るようになる講座はないかね。</p>
若宮館長	<p>博物館は食べられる食べられないの鑑定をするところではないと思っている。博物館は自然界でのキノコの役割、キノコの面白さを知らせる、また、この地域にどんなキノコが生育しているのかを調べるのが役割だと思っている。とは言っても知りたいでしょうから、市民研究員のキノコグループの力を借りて、秋にキノコの同定会を開催することにしている。</p>
浜委員長	<p>ありがとうございました。それでは守矢史料館お願いします。</p>
田村館長	<p>資料に基づき、守矢史料館の事業計画について説明。</p>
浜委員長	<p>入館者はどうか。</p>
田村館長	<p>年々増加している。去年は御柱とか武田信玄とか、特別の企画展が無い年であったが最高だった。今年も昨年を上回る数で推移している。</p>
浜委員長	<p>守矢史料館という名前は一般の人には何だかわからない。諏訪神社の重要文化財の資料があるとか聞いているが、もう少しわかりやすい名前はないか。</p>
田村館長	<p>相談してみましよう。</p>
関塚委員	<p>どんな世代の人が来るのか。</p>
田村館長	<p>満遍なくきている。年寄りが多いかなという感じはするが。</p>
関塚委員	<p>6月に学生を連れて行ったが非常に丁寧に説明してくれた。説明は今の若者には解りにくいかなと思ったが、非常に分かりやすかった。</p>
岡野委員	<p>この館だけではなく全体的に、いろいろなゼミや講演や講座が展開されているが、誰を対象にしているのか分からないのが多い。どこにターゲットを絞って、どういう層に何を伝えようとしているのか解らない。それぞれの館に優秀な学芸員がいるのだからそういう人が丁寧に分かりやすい説明をすれば、人に対しても館に対しても親しみが増し、リピーターも増えよい循環ができるのではないか。</p>
浜委員長	<p>3館に報告してもらったが全体を通して何かご意見質問はあるか。</p>
根橋委員	<p>自然科学、科学技術についてもいろいろ計画があるようだ。私は博物館の子ども科学クラブで指導しているが、子供たちに道具の使い方を教え、いわゆるものづくりの観点からもう少し突っ込んでみたいと思っている。自然界の植物や動物を研究し、その中から自然の原理をつかみ取って、それを形にしていく。その中で手先の器用さ、工夫する力、調べたり勉強する力を育てる場が必要だと思っている。たとえば工作する最低限の場所と道具と材料があって、いつでも自由に出入りをして能力を伸ばす場も必要</p>

浜委員長

だと思う。そこで研究員や学芸員と一緒に作ったり考えたりする物作りの城みたいなものがあればよいと思っている。

博物館は市民の文化活動の拠点になるところで、多くの市民が博物館にかかわって、活発な活動をすることを期待して、各館の事業計画については終わりにしたいがよろしいか。

浜委員長
大谷係長

(3) 専門部会の経過と答申について

では次の議題に入る。事務局、説明をしてください。

専門部会の部会長と副部会長が出席しているのでそちらから説明していただきたい。

浜委員長
大谷係長

経過説明については事務局をお願いしたい。

分かりました。昨年7月に博物館館長より展示更新と科学技術振興について、資料にあるように協議会に諮問した。協議会では専門部会を設けて沖野部会長、北澤副部会長のもとで資料にあるように視察を含め検討を進めた。3月には中間報告をさせていただき、本日検討結果をまとめた答申案をお示しできるようになったという経緯です。

浜委員長
大谷係長

では専門部会で検討した答申案について説明してください。

この件につきましては専門部会の沖野部会長、北澤副部会長に出席いただいているので、そちらから説明していただく。

沖野部会長

現実には23年度に専門部会が2つ作られた。展示についての見直しと、科学教育センターのあり方についての専門部会である。これはこの協議会から諮問を受けたわけではなく、教育委員会から諮問を受けて討議された。それをもとにして博物館長から諮問を受けたものに対するのが今日の答申案だ。検討の結果、非常に多岐にわたっており、内容も幅広い。それらを博物館が将来どうなっていくのか、どうあるべきかについて物語形式もまじえてまとめた。これはつまり、市民の方々に博物館というものを知っていただくため、漫画や小説で説明するときの下地になるものだ。その中から、たとえば市民研究員養成講座など、具体的な取り組みが始まっているものもある。八ヶ岳総合博物館については、やはり茅野市の特徴を生かしつつ、八ヶ岳を中心にやっていくという土台は崩してはいけない。これは昭和58年の基本構想とほぼ変わらない。ただ、20年という歳月を経て学問的にも変わってきている部分はある、それに合わせて展示の内容を変えていくことなどの検討が必要だ。また、現代の博物館では、たとえばタブレット端末などを使って奥行きのある展示をするなど、技術的に様々な展示の方法が考えられる。時代の変化に柔軟に対応できる展示が現代の博物館には求められている。23年度の専門部会の答申であった「市内全域が丸ごと博物館だ」というような考え方は、この現代の「二元三元的・可変的博物館」構想につながってくる。それでは具体的にその構想をどうやって実現していくかだが、何よりもまず、企画運営体制を確立することが博物館の活性化に急務だろう。そこで「企画運営委員会」なるものを立ち上げ、市民が利用しやすい博物館という観点から常に目を配っていくことが望まれる。次に、学校教育との連携についてだが、学校教育の中で子どもたちが興味を持ったことや疑問に思ったことを調査するには、どの博物館のどこで展示されているのか、子供たちや教師たちにわかりやすい、

利用しやすい博物館にしてゆかなければならない。それはすなわち、市民が参加しやすい、開かれた博物館ということにもつながってくる。市民自らの学習場所として博物館を利用できるということ、また学芸員有資格者を補助し、あるいは市民研究員が主体的に博物館の企画運営を進めてゆくことで、「公民共同」での博物館活動を実現できる。ゆえに市民研究員養成講座はとても有意義な取り組みだ。それらを含めて科学教育の振興をどのように進めてゆくかだが、やはり、科学教育センターを博物館に併設するのが望ましいだろう。博物館が調査研究活動を活発に行い、その資料を能動的計画的に収集して保存し、市民に公開してゆく。これは博物館の重要な使命だ。また、これは昭和58年の基本構想にはなかったことだが、博物館の専門化ということが挙げられる。たとえばプラネタリウムについては現実に北部中学の生涯学習センターに非常に精巧な天体望遠鏡があり、また、八ヶ岳総合博物館の若宮館長はプラネタリウム関係では優秀な人材なので、プラネタリウムの導入も一つの検討材料にすべきではないか。展示教育活動については、特別展示で凝らした趣向を常設展示にも生かしてゆくことが必要となる。以上、そのような博物館の取り組みを学校教育のカリキュラムに積極的に加えることだ。期待される施設関係については、現在ある博物館の施設を有効利用しつつ、新たな施設を加えてゆくことが大事だろう。新たな施設を加えてゆくことは何も箱モノを新しくつくるのではなく、たとえば寒天蔵など、郷土の貴重な遺産を博物館に取り込んでゆくことなどが考えられる。そこで一つ問題となるのが、八ヶ岳総合博物館に収容されている岳麓文芸館だ。本来であれば当該スペースは特別展示をすべき場所であり、それが奥の講堂に追いやられている格好なので、将来的には岳麓文芸館を独立させることも視野に入れるべきだろう。さらには八ヶ岳総合博物館の展示品であり、毎月の講座も開かれている機織りについても「民芸館」として独立させるのも一つのアイデアだろう。以下、昭和58年の基本構想にあって実現できているものとそうではないもの、それらを基本構想の目的と博物館の性格に照らし合わせ、施設の中身、組織の在り方、運営方法、調査研究、資料収集、教育普及についての評価表をまとめ、それをもとにして短期（5年）・中期（10年）長期（10年以上）ごとの計画の提言をさせていただいた。

浜委員長
関塚委員

沖野部会長の答申内容について何か質問のある方は？

展示についてだが、制作時から随時、専門家に展示内容の正誤を確認してもらっているのか？また、来館者、特に学校など、団体の展示解説希望に対して対応しているのか。解説の方法などについてもたとえば勉強会を開催するなどして改善の努力をしているのか？

大谷係長

それについては市民研究員養成講座でも今後、取り組んでいくべき課題だと認識している。また、市民研究員が養成されれば、それぞれの専門分野ごとの展示に配置され、すべての展示においてより詳細な解説と個別の質問に答えることが可能になる。植物分布の変化など、展示の現在における学問的正誤についてだが、大学や研究機関との連携を密にしながら正確な情報を発信していかなければならないと考えている。

沖野部会長	<p>そうなると、博物館友の会のようなものを作り、それぞれの専門の人がすぐに対応できるような組織作りも必要だ。</p>
関塚委員 沖野部会長	<p>動植物の専門的な質問に対しては、説明はどうするのか。 大学との連携で手配をしておくという事は必要だと思う。現在学芸員が2名しかいないので、そんなに対応できるわけではない。動物は大学でも1人ぐらいしか思い当たらない。特に哺乳類は少ない。少なくとも、ルートを作っておいて、知りたい人がいれば連絡が取れるようにすれば良い。</p>
関塚委員 沖野部会長	<p>博物館の展示に反映することができるかどうかだ。 展示替えは考えている。基本的には大きく替えないが、替える必要は考えている。</p>
名取委員	<p>学芸員の数が少なく、研究体制が整っておらず、また、人が変わったり、他に研究者がいないなど、継続性がない。この底上げを、八ヶ岳総合博物館でどのようにしていくかが課題である。</p>
北澤副部会長	<p>この点については、23年度に議論した。自分たちの力でできないことを、大学の力を借りるなどして進めていく。進めていくが、学芸員に勉強していただいて、全体を通して説明できる学芸員の養成をしていかなければならない。そのためには、ひとつひとつの展示内容の説明できるテキストを館として作っておかなければならない。そうでないと、全体を網羅した説明はできないと思う。学芸員にも得手不得手があり、自分がわからないところを素通りしたのでは、務めを果たしたことになる。そのために学芸員が欲しいと熱願しているところである。</p>
関塚委員	<p>ここの展示についてだが、縄文のビーナスと仮面の女神がない。考古の展示を見に行ったときに中心となる展示がない。本物を見たければ尖石縄文考古館へ行って欲しいというのは、だまされた感じがする。せめてレプリカがあればいいと思う。レプリカがあって、本物は尖石縄文考古館にあるという感じにして欲しい。</p>
沖野部会長	<p>3館があまりダブらないようにしたいという構想がある。ダブらないけれど、こういう所へ行けば、こういう展示があるという関連した展示手法があるだろうと言うことで、タブレット型が有効であろうと考えている。</p>
小口委員	<p>理科の教員として、科学振興は素晴らしいと思う。博物館が拠点となって行くことをあまり考えていなかったもので、軌道に乗ればいいと思う。高校生にしても、実際に身体を動かして実験し楽しんでいる。展示の中でも、子供向けには体験的な展示ができればいいと思う。</p>
沖野部会長	<p>いろいろなイベントを開催するときに、サイエンスフェスタに博物館が関わっていれば、もう少し広がりがあったのではないかな。 工作については、科学教育センターがあればスペースを中に作って、その中で学校ではできないことをできればいいという構想で書かれている。サイエンスフェスタなどにも博物館が積極的に参加して、アピールする必要がある。企画運営委員会ができれば、そういうことも検討できるのではないかな。</p>
岡野委員	<p>茅野エコツーリズム協議会では環境教育、体験学習をメインに進めている。その中で、指導者の方々には子供たちや大人も含めていかに伝えるべきか、伝え型の手法、インタープリテーション、楽しく学ぶということはどう構成していくか、様々なアクティビティをどう構築していくかということを学ぶチャンスを作っている。学校の教育とフィールドでの体験学習</p>

浜委員長

をセットにして、学校でうまく子供達に対応できたらすばらしいという思いがある。市民研究員にも、ぜひ、エコツーリズムに参加していただきたい。

若宮館長

他に意見はないか。
無いようなのでこれで打ち切る。

浜委員長

ありがとうございます。今、専門部会から答申の案が出されたが、これを、博物館協議会としての答申としていいか、議論していただきたい。

全委員

皆様よろしいか。

若宮館長

了承。

浜委員長

これで私に対して博物館協議会から答申されたと解釈して良いか。

浜委員長 そういうことで良い。

小池部長

(4) その他

今後の経過の説明である。今、博物館協議会から館長へ答申されたが、今度は博物館長から教育委員会に上げられ、教育委員で審議することになる。教育委員会内でこれは無理ではないかというときは、キャッチボールさせていただく。それである程度できたものを、市長部局と調整していかなければならない。しかし、茅野市は 200 億円まで予算を縮減していかなければならない。ソフト面ではできるが、ハード面ではかなり詰めていかなければならないと思われる。

浜委員長

ではこれで博物館協議会を終了する。